

インクルーシブ教育の推進に向けて

教育指導課

本市では「誰もが輝く暮らしよい都市（まち）」の実現に向けて、教育振興基本計画で掲げられたインクルーシブ教育の推進を図っています。

特に令和2年度からは、「すべての子どもが同じ場で共に学ぶ学び舎づくり」を目指した具体的な取組を強化しており、5年目となる今年度は、国や県と連携しながら、モデル校を中心に具体的な取組を進めています。

1 これまでの取組

(1) 末広小学校と秦野支援学校による新たなカリキュラムの研究

文部科学省より「インクルーシブな学校運営モデル」事業の研究委託を受け、全国的に事例の少ない神奈川県立秦野支援学校と末広小学校が同じ敷地内に設置されている強みを生かし、これまでの交流及び共同学習を土台に、新たな共通カリキュラムの開発を目指しています。



学校探検の一コマ



交流の様子

(2) 北中学校での教職員の意識向上プロジェクト

北中学校では国立特別支援教育総合研究所と連携し、インクルーシブ教育実現に向けて、教職員の意識の向上を図っています。今年度は国立特別支援教育総合研究所から講師をお招きし、模擬授業を取り入れた参加型の研修会を行い、環境整備や合理的配慮についてご助言いただきました。



参加型の研修会の様子



教師が生徒役となった模擬授業

2 今後の取組

(1) 末広小学校と秦野支援学校による新たなカリキュラムの研究

令和6年度に蓄積した指導案や記録を基に、授業の目標達成のための手立てとして、指導形態、評価方法をさらに検討していきます。また、取組で得られた成果を市内外に発信していきます。

(2) 北中学校での教職員の意識向上プロジェクト

「すべての子どもが同じ場で共に学ぶ」環境整備の課題について整理します。全ての生徒、教員が共通認識できるスタンダードな環境整備を検討し、好事例を公私園種校種問わず市内で共有を図ります。

(3) その他市全体の取組

ア 特別支援教育コーディネーターの拡充

本市では、令和4年度から特別支援教育に見識の深い有識者をコーディネーターとして2名配置していましたが、令和7年度からは2名増員して、医療的ケアの体制整備も含め教職員の相談を受け支援方法の充実につながるよう拡充します。

イ 教育支援助手と特別支援学級介助員の一元化

北中学校におけるインクルーシブ教育の意識向上の取組を踏まえ、令和8年度には教育支援助手と特別支援学級介助員を一元化し、学校の状況に応じた個別最適な学びや合理的配慮の実現に向けた支援体制の整備を目指します。

ウ 小中一貫した通級指導教室の拡充

本市では、令和元年度から個別最適な学びや合理的配慮の実現に向け学び通級指導教室の拡充を進めてきました。

令和7年度には、小中一貫教育の観点から義務教育学校モデル校となる東小学校と東中学校において、同一の通級指導教室担当者が一貫して支援する人事配置を行うとともに、今後は大根中学校区、北中学校区でも順次整備を目指します。